

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 11 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500182		
法人名	医療法人社団和恒会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ふたばホーム		
所在地	呉市広白石四丁目1番11号 (電話) 0823-76-3315		
自己評価作成日	平成22年11月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksjks.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=3490500182&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年12月14日（火）

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>いつも笑顔で温かみが持てるように努め、四季が感じられるよう、四季の食材を使った食事作りや四季の植物、動物等を題材にした作品作りを行っている。料理、掃除、洗濯等の作業を利用者さんと一緒に行うなど出来る事は参加してもらえ事を原則としています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none">・高齢者複合福祉施設の3階にある当ホームは、母体の医療機関や関連及び併設の事業所とのきめ細かい協力と連携があり、開放的なホームで入居者の方々は、お気に入りのスペースでくつろいで過ごされている。職員の対応も大変丁寧で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めながら、寄り添うケアが実践されており、この取り組みは、入居者の落ち着いた穏やかな表情から伺えた。・全職員がグループホームの運営方針を大切にして、ケアを提供されており、共同生活を維持し、入居者が自分らしく暮らしていくことができるように、理念を共有し、職員一人ひとりが自覚と話し合いの場を多く持ち、情報を共有しながら日々の支援に向けて取り組んでいる。・開所時より、家族との情報交換は緊密に行い、支援を求めている家族にはいつでも耳を傾けたり、気持ちを受け止める等の事業所全体の姿勢は、家族の安心と信頼につながっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念とは別に、全職員で話し合い、「生きがい・役割を持てるホームを作る。季節感を感じられる」等を盛り込んだ事業所独自の理念を作り取り組んでいる。	全職員が話し合って作り上げた、事業所独自の理念を管理者と職員は、共有し、意識しながら、日々の中で話し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流は出来ていないが、近隣の方々への挨拶は欠かさないように努めている。	事業所が高齢者複合福祉施設の3階にあることもあり、近隣の方に気軽に立ち寄っていただくことが、若干難しいようではあるが、散歩等に出かけた際などには積極的に挨拶や声かけを行いながら、近隣の人たちとふれあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進委員会に於いて認知症についての資料を配ったり勉強会をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の現状や問題点を報告し、一緒に考えていただいて意見交換、サービス向上にも繋げている。	会議は、家族、地域住民、地域包括支援センターの職員、管理者、職員をメンバーに開催している。会議の場では、ホームの現状や行事内容の報告、意見交換等を行いサービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進委員会への参加依頼、また会議報告を市、包括に行っている。	市担当者にホームの考え方、運営や現場の実情等を伝える機会を作り、直面している課題の解決に向けた話し合いや対応等について、協働する取り組みを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	徘徊の激しい方がいるため玄関の施錠のみしている。身体拘束はしていない。	職員は身体拘束について、常に話し合いや勉強会を行い、身体拘束廃止のケアに向け、意識を高めて取り組んでいる。入居者の安全のために、やむを得ず玄関を施錠する場合には、全家族に主旨を説明し、納得と同意を得ながら行っている。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	虐待等はあることはないことで、些細な事でも見過ごさないようにしたい。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	職員全員が完全に理解しているとは言えないが、必要な人がいれば支援出来るようにしたい。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時に契約書・重要事項説明書と運営規程を参照しながら説明し、同意し納得して頂けるように努める。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	利用者の意見を傾聴し、不満等を運営に反映している。意見箱を設置している。	家族の来訪時に、直接意見や要望をもらい、そのつどスタッフに伝え、速やかに対応している。入居者や家族が、気軽に意見しやすい雰囲気や、日頃からのコミュニケーション作りが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員全員が揃うミーティングの他、ミーティングノートを使い意見交換をしている。	ミーティング等で、職員は意見や気付きを引き出し合っている。管理者は、職員個々の考えや提案に耳を傾け、意見を取り入れるようにしている。また、相談を受けたり、ケアに対する思いを聞いたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的な面接を行い、働きやすい環境を作れるように努めている。（評価表をもとに）		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修、講習会への参加を呼びかけ実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同じグループ内ではあるが、ふたばの家の管理者、職員と交流し、意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来るだけ体験入居をしてもらい、様子観察し本人の要望に傾聴し対応するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談時、面会時に家族から表出される問題点等に対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	複合施設なので自事業所だけでなく多方面にわたり利用できるものなどを含めて相談させてもらい、他事業所を紹介する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者に料理の作り方や風習を教えってもらうなど、ゆっくりとコミュニケーションをとり、同じ時間を共に暮らす関係作り、和める雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	細かい点についても家族と相談し、了解を得ながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の希望があれば電話したり手紙にしたりする事を手伝う。面会などは自由に出来る設定とし、また来てくれるよう努めている。	これまで本人を支えてくれたり、逆に本人が支えてきた取り巻く人間関係について、把握しながら、関係を継続させるための支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂の席順、入浴日等和やかな雰囲気作りが出来るよう気を配り、孤立しないよう声かけで利用者同士の親しい関係が出来るように支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された後も入居先の病院にお見舞いに行ったり家族に近況を聞いたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	心地よい暮らしが出来るよう一人一人に希望にあわせるよう努めている。	日々の関わりの中で、声をかけ、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認する等しながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人一人の生活歴を把握するように努めている。利用者にもいろいろな場面で聴くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の体調の変化や現状の把握は職員間の申し送り等により把握され職員が交代後も継続してケア出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	利用者一人一人の状態にああった計画を作成している。	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意向を聞き、反映させる他、アセスメントや、日々の記録を基に職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	介護記録を日勤と夜勤で記入し、職員間で情報を共有しながら実践、介護計画の見直しに努めている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	本人様や家族様の要望に対しては出来るだけ柔軟に対応するように努めている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	民生委員、自治会長、ボランティア、消防等の協力を得ている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	協力病院の担当医の適切な医療が受けられるようになっている。	入居者一人ひとりの入居前の受診の経過、現在の受診の希望を把握して、今までのかかりつけ医や希望する医療機関による支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤の看護師が24時間体制で連絡でき利用者の健康状態等の管理を行うと共に協力病院の看護師にも相談を受けてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換、相談等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時重度化や終末期の対応については同意書で説明し状態に応じ話し合いするように努めている。地域の関係者との共有はまだない。	重度化に伴う同意書を作成し、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針をチームで話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成し、利用者の状態に応じて対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て訓練を行っている。	災害対策のマニュアルを作成し、定期的に消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認などを行っている。また、同じ建物の中にある、他の事業所との連携体制も構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声かけの内容や対応記録等がプライバシーを損なわれないよう努めている。トイレ誘導は他者にわからないよう声かけしている。	高齢者の尊厳を守ることを、法人全体で取り組んでおり、対応や言葉がけで傷つけたり、プライドを損なうことのないよう、日頃から十分に注意している。入居者に接する場面やそれ以外でも、職員はとてども丁寧な対応をされている。記録等も、客観的かつ、尊厳を損ねないような記載方法が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを密にとり、本人の希望を表わす事が出来るように努め、希望が出来る限り優先されるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人一人を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望にあわせて美容院に行くこともあるが、最近では訪問美容サービスを利用する事が多い。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の好みを聞き、利用者と職員と一緒に準備して食事をいただき、後片付けをしている。	調理、盛り付け、配膳、後片付け等、個々の能力に応じて職員と協働して作業をする等、食事への関心を引き起こす工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	献立、食事量をチェックし水分補給に関しても頻繁に声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアは声かけ、見守りのもと行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録をとり、パターンや習慣を活かして排泄できるようトイレ誘導等している。	排泄チェック表に記録し、時間を見計らって誘導する等排泄パターンに応じて、自立に向けた支援を行っている。トイレでの排泄を大切にしながら、リハビリパンツ類も本人に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄管理表に記載し、下剤の調節、飲食物の工夫や体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	一応入浴日は決められているが、一人一人の習慣や状態により、臨機応変に対応している。	入居者の習慣や希望の多様性を活かしながら、安心と満足、スムーズで安全な入浴、体調の改善の発揮等につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	生活習慣やその時の状況に合わ せて室内の温度等の環境に気を つけ安眠、休息が出来るように 支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	職員は一人一人の薬を把握し確 認して服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	利用者が役割を持ちホームの生 活を楽しめるように心がけてい る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	利用者の状態に合わせてスーパー に買い物に行ったり散歩に行っ たりしている。	気分転換やストレスの発散、五 感刺激の機会として散歩等に出 かける等、外出や戸外で過ごせ るよう支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	現金の所持はしていないが利用 者が希望する買物は家族の了承 をもらってから購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望で電話したり、手紙を出したりする事を支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間は常に居心地の良い、利用者一人一人が自由にくつろげる場になっている。	リビングは、適度に光が差し込み明るく、掃除が行き届き清潔感にあふれ、五感刺激や季節感にも配慮されている。また、畳の間等入居者の馴染のものを取り入れた場を整えながら、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファで話をしたり、思い思いに過ごされているようである。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	寝具、小物等は本人が使われていたものを持ってこられている。居室が殺風景にならないよう利用者や家族と相談し飾り物を置いたりしている。温度調節もこまめに行っている。	家族に依頼し、入居前に自宅で使用していた馴染の物を持ち込んでもらい、安心して居心地良く過ごしてもらえるように、配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者が混乱、失敗がないよう部屋の表札を大きくしたりトイレをわかりやすくしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ふたばホーム

作成日 平成23年 1月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2 ・ 1 4	外部との交流が少ない	施設内の他部署・慰問による交流を積極的に行う事が出来る	慰問や行事を通し、地域の方へ訪問等してもらえるよう声かけを行う。小規模多機能との合同レクに取り組む	6ヶ月
2	1 ・ 1 3	具体的な目標の設定がない	理念から個々の目標を設定する事が出来る	定期的な面接、ミーティングにより目標を具体化する	6ヶ月
3	1 3	マニュアルをより徹底したい	職員全員がマニュアルを把握する事が出来る	研修を通しマニュアルを確認する	1年
4	1 0 ・ 2 4 ・ 2 9	家族との交流をより深めたい	家族参加の行事を行い、交流を深める事が出来る	部署の新聞により、行事予告の声かけを行う	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。